

ウイルス担当(平成15年度)

病原体定点調査(感染症発生動向調査事業)

(1) インフルエンザウイルス

平成15年11月から平成16年4月までにAH3型ウイルス88株、B型ウイルス10株合計98株のウイルスが分離または遺伝子が検出された。このうちAH3型ウイルスについては平成15年12月4日(第49週)の金沢区定点検体から1株分離され、翌々週の12月20日には港北区定点検体から2株分離された。その後1月第4週をピークとして3月第10週まで分離が続いた。他方、B型ウイルスは平成15年12月15日(第51週)に鶴見区定点検体からはじめてウイルス遺伝子が検出され、翌週には港北区定点検体からも遺伝子が検出された。年明け後は2月第8週に港北区定点からはじめて分離され、AH3型と入れ替わると思われた。しかし、その後分離されたのは3株で、4月以降はウイルス遺伝子が2検体より検出されたのみであった。各ウイルスの抗原性状を調べたところ、AH3型ウイルスはワクチン株であるA/Panama/2007/99より少し抗原性が異なったA/熊本/102/2002類似株であったが、ワクチン株より抗原性が大きく異なった株が9株みられた。一方、B型ウイルスはVictoria系統のB/Shandong/07/97(ワクチン株)に反応せず、すべて抗原性が異なる山形系統のB/Johannesburg/5/99に類似したウイルスであった。

(2) アデノウイルス

一年を通じて38株が分離された。3型は春季から夏季にかけて多く分離され、また、冬季にも散発的に分離された。

(3) エンテロウイルス群(ポリオ、コクサッキーA・B群、エコー、エンテロウイルス71)

夏季を中心に、12種32株が分離された。ポリオウイルス2型の分離時期は秋のワクチン接種時期と一致していた。

(4) ライノウイルス

上・下気道炎の患者から1株検出された。

(5) RSウイルス

冬季の小児のかぜの主要な病因ウイルスの一つとしてよく知られており、冬季を中心に19株分離された。

ウイルス性食中毒等の検査(平成15年度)

非細菌性の有症苦情を含む食中毒等の事例に対する検査は、昭和58年度より原因究明のための調査・研究として実施している。平成15年度の実検件数は、99事例791件(患者515件、従業員218件、食品58件)であり、年々取扱件数が増加している。全事例中の61事例(61.6%)は*Norovirus*が陽性、1事例はA群ロタウイルスが陽性であった。本年度の*Norovirus*の遺伝子型に関しては、シジミが原因と推定される1事例にG1型を含む患者が認められたが、それ以外の事例は全てG2型の事例であった。

今年度の事例で特筆すべき点としては、*Norovirus*を原因とする施設内の集団発生が16事例(老

人施設6事例、病院2事例、保育園・幼稚園3事例、小学校2事例、中学校・大学・生活保護施設各1事例)と非常に多く、全40事例(市内に原因施設があった事例)の40%(16/40)という高率であった。学校関係の2事例と老人施設の1事例は調理人からの感染が強く疑われ、明らかに食品(カキ)が原因と推定される事例は老人施設の1事例だけであった。また、何らかの原因で施設内にウイルスが持ち込まれ、ヒト-ヒト感染による二次感染で集団発生が生じたと考えられるケースは学校関係の3事例、病院の2事例、老人施設の3事例が認められた。これらの二次感染と推定される8事例は、福祉保健センターでも食中毒扱いで対応したケースもあり、このようなケースも多発していることから事件発生の取扱いには、発生状況等の疫学調査を踏まえた総合的な判断が最終的には必要と考えられる。

また、平成11年度より市内市販品の生食用カキにおける*Norovirus*の汚染状況調査として、収去品の検査を実施している。本年度は本場、南部の両市場検査所でカキ中腸腺からのウイルスRNAの抽出、cDNAの合成までを行い、当所でリアルタイムPCR(ABI7700)による*Norovirus*遺伝子の定量検査を実施した。その検査結果は、99検体(パック)中5検体が陽性であった。

肝炎ウイルス検査(平成15年度)

(1) B型肝炎ウイルス

平成15年度における検査件数は3,018件で、その内訳を表12に示した。横浜市大附属病院(福浦)の医療従事者の定期検診ではHCV抗体検査も併せて1,109名の検査を実施した。

各区福祉保健センターからの依頼検査の総数は1,867件で、そのうち6件が妊婦であった。

自主的検査としては、横浜市立大学病院口腔外科を通じて、神奈川県内の歯科医師会の歯科医療従事者へのHBワクチン接種のための検査を42件行った。

(2) C型肝炎ウイルス

平成14年度に厚生労働省老健局老人保健課より「肝炎ウイルス検診等実施要領」が示され、本市でも平成14年度から各区福祉保健センターで実施されている基本健康診査においてC型及びB型肝炎ウイルス検査の導入が決定した。方法は、節目検診と称して、満40、45、50、55、60歳の受診者を対象とし、5歳毎の年齢の時に1回限り検査を受診できるシステムで、検査については、当所が担当し、当面5年間の新規事業である。本年度はその2年目であり、検査総数は、5,491件であった。その内、C型肝炎ウイルス陽性者は68名(1.2%)、B型肝炎ウイルス陽性者は47名(0.9%)であった。

なお、昨年度より行っている各区保健福祉センターにおける一般外来での有料扱い(上記以外の対象者)の検査総数は、1,419件で、C型肝炎ウイルス陽性者は14名(1.0%)であった。

HIV検査(平成15年度)

福祉保健センターからの依頼であるHIVのスクリーニング検査については、昭和61年度から衛生研究所で検査を実施している。本年度の取扱件数は3,105件で、その内陽性検体は7件であった。

また、市民病院からの依頼であるエイズ患者のフォローアップ検査は、抗HIV薬剤に対する耐性株の出現をみることを主眼にしており、患者への治療方針の補助になるものとして平成5年度から実施している。本年度の検査件数は、患者数49名による51件であり、その内新患は42名であった。